

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、北に四天王寺や国道 25 号線、南に天王寺・阿倍野のターミナル、西に動物園や天王寺公園、東に環状線寺田町駅を控えた寺社や商売、教育関係で発展してきた町で、子どもたちは概ね穏やかで素直な児童が多い。また校区に児童養護施設を有し、全校の約 10% の児童が在籍している。児童の中には、これまでの成育歴に起因する課題を抱え、学力面にも情緒面にも細心の配慮を要する場合もある。そのため、基礎学力の育成と心の居場所、心を育む場としての学校の役割は大きい。また、近年児童数の急増が見られ、中国を中心とした渡日児童も増えている。その殆どが日本語を全く話せないため、学習以前のコミュニケーションに児童も教員も苦労する場面が多くなっている。

本校は、教育目標を「心豊かで助け合うたくましい子どもを育てる」とし、これまで「自ら考え判断できる子」「心豊かな素直な子」「仲よく助け合う子」「進んで運動するたくましい子」、知・徳・体バランスのとれた子どもの育成に全教職員が一丸となって取り組んできた。また、「JAET」優良校として、全学年で端末等を活用した授業づくりに取り組んでいる。

令和 6 年度大阪市小学校学力経年調査における標準化得点では、ほとんどの学年で市平均を上回っているものの、その差はわずかであり、今後はこの状態からさらに向上させることができるかどうかは課題である。また、令和 6 年度全国体力・運動能力調査の結果では男女差が大きく、一週間あたりの運動量も大きく違いがある。それは、体力合計点では男子は全国平均を上回ったが、女子は全国平均を下回るなど結果にも表れている。

グローバル化、情報化がますます進む変化の激しい 21 世紀をたくましく生き抜く自律した社会人に成長するようコミュニケーション力やコラボレーション力、ICT 機器活用能力、健康な体と豊かな心をもった子どもの育成は引き続き本校の課題であると考えている。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85% 以上にする。
- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 96% 以上にする。→R7 96.2% に変更

【未来を切り開く学力・体力の向上】

- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 50% 以上にする。
- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 66.6% 以上にする。→R7 69% に変更

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和 7 年度の授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕
- ・令和 7 年度の第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 84.9% 以上にする

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を96.2%以上にする。（昨年度実績96.1%）

【未来を切り開く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を50%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を69%以上にする。（昨年度実績68.9%）

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の57.4%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ＩＣＴ活用が適さない日数を除く〕（昨年度実績57.3%）
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を94%以上にする。（昨年度実績93%）

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式 2)

大阪市立天王寺小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。(昨年度実績 80.7%)</p> <p>○小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 96.2%以上にする。(昨年度実績 96.1%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>児童が学校が楽しいと思える環境を作る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>ア 子どもの情報を共有する場（生活指導部会・特別支援打ち合わせ会など）を毎月設定することで子どもの困り感や学校の課題に教職員が気付き、適宜対応できるようにする。</p> <p>イ 天小ガイドブックをもとに安全な学校生活を送ることができているかを毎学期振り返るようにする。</p>	
<p>取組内容② 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>学級内・異学年間での活動を充実させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>ア ふれあい遊びや児童集会、ペア学年での遠足など、異学年間での活動を年間 30 回以上行う。</p> <p>イ 高学年が低学年の手本となったり直接教えたりする活動として、たてわり清掃を実施し、振り返り活動を毎回行う。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式2)

大阪市立天王寺小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 50%以上にする。（昨年度実績 48.7%）</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 69%以上にする。（昨年度実績 68.9%）</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>各教科等での言語活動の充実を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>ア ペア交流やグループ活動、クラウドを活用した他者参照（友達の考え方の見える化）などによる伝え合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる授業を一日に1回以上する。</p> <p>イ 言語活動を計画的に位置づけ、協働的で学びを深める授業実践を年1回以上行い、教員の指導力の向上を図る。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <p>児童が進んで運動に取り組んだり、健康を意識したりする環境を作る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>ア 体育朝会で、投の運動（遊び）を学期に1回実施する。</p> <p>イ 体育科の実技研修を年間2回実施する。</p> <p>ウ 毎月、保健目標などに合わせて自分の健康生活や健康状態を見つめる取り組みを行う。</p> <p>エ 食に関する指導や給食指導を全体計画に沿って行ったり、校内の献立コンクールや給食週間を実施したりする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式2)

大阪市立天王寺小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の57.4%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]（昨年度実績57.3%）</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を94%以上にする。（昨年度実績93%）</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>学習者用端末を毎日使う環境を作り、活用内容を充実させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>ア 一日に1回以上、児童が学習者用端末を使って、デジタルドリルや協働学習支援ツールを活用する。それを通して、指導者が指導法や支援の工夫を行い、児童が主体的に学習に取り組めるような個別最適な学びを充実させる。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>学校閉庁日を設けるとともに、時間外勤務時間の削減に向けた取り組みを行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>ア 学校閉庁日を年5日設ける。</p> <p>イ 週1回のゆとりの日を対象となる課業中の全週中、90%以上実施する。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

次年度への改善点